

道徳的にみた内側にある性差意識について

文系B1班 氏名 平間朝登 佐藤隼大 工藤伊吹生 白井大輝

1. 序論

男女平等の可能性 ひとりひとりの幸せ
 社会の豊かさ、経済の拡大
 人権（自分らしく生きる）
 男性、女性の価値観の違い
 ex)性別役割分業観
 女性の社会進出の遅れ

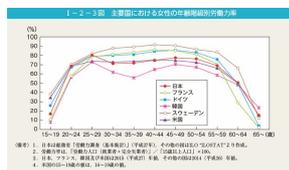
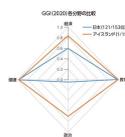
まとめ・結論

日常における男女の差別は減ってきてはいるが、社会に男尊女卑の名残りというのは残っており、アンケートからまだ男女の境界を作り区別している人たちはおり、問題は多い。政治やメディアなど大きな組織ではなく、個々の意識が変わることが男女差別をなくすための第一歩になると考えた。そのため、これからの社会を担う私達にかかっていると思う。

2. 材料と方法

日本の社会での女性進出

- 賃金面、育休で大きな遅れがある
- 特に管理職に占める女性の割合が低い
- 原因:結婚、育児→職場の理解が必要
- しかし、父のみ働き、母専業主婦の割合は減少 →共働き



内閣府男女共同参画局



内閣府男女共同参画局

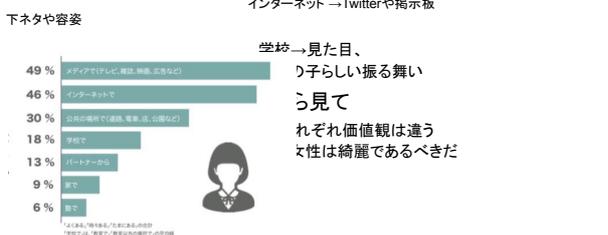
M字カーブ→結婚、子育て

子育てが落ち着く、家計の支えとして40代頃から再就職
 家計の支え→非正規雇用(パートタイム)の増加
 パートタイマー 高度経済成長期増加 主に主婦層家計補助的に就労
 企業にとって...雇調調整がしやすい、賃金が抑えられる。人手不足の時代
 良い傾向:共働きという概念の浸透 夫の家事参加を促進させる

- 教育 教育の中で男女差別は少ないといえる。
 しかし家庭内で問題があるのではないかと、近年あったような、合格率の操作などは言語道断

○日常生活で

普段の生活で性的な嫌がらせや性差別をどれくらい経験しますか
 ガールスカウト日本連盟

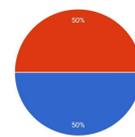


上のアンケート オンライン女子高生 500人程度
 女性問題に興味のある女性 偏った傾向 しかし、生の声

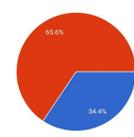
- 道徳的にいかなものか
- 男子、女子お互いどう感じているのだろうか
 →アンケート
 男子、女子 性の意識調査について どのような認識の違いが
 google フォームでアンケートを作成
 男女平等への提案

3. 結果と考察 ・アンケート結果

Q1, 異性と話すことに抵抗はありますか?
 24件の回答



異性と話すことに抵抗はありますか?
 32件の回答



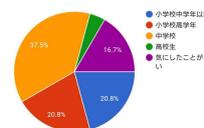
Q2, (特に異性の)人を判断するポイントは何ですか?
 24件の回答



(特に異性の)人を判断するポイントは何ですか?
 32件の回答



Q3, 自分の容姿を気にし始めたのはいつですか?
 24件の回答



自分の容姿を気にし始めたのはいつですか?
 32件の回答



・考察

男女による異性の区別は少なくなってきてはいるが男女平等を実現するためには、まだ十分ではないと感じた。
 男性は女性に対して顔を重要視するという日本社会の風潮を表していると感じた。また男子に対しては性格を重要視することから男女差別が生じているのではないかと2つめの考察で述べた考察の有効性を強めている。年代的に思春期に容姿を意識し始めた人が多く、男子は女子を容姿で判断することに繋がっていると感じた。

政治、メディア、家庭、学校様々な場所が完全な男女平等を妨げる現場となっている。
 →それぞれが一体となり取り組むことで個人の内面上の意識はなくなるのではないかと

参考文献

- 本文 1 非正規雇用の歴史と賃金思想 濱口圭一郎 大原社会問題研究所 4-20 2017
- 2 主婦の就労と性別役割分業 岡村晴子 家族社会学研究所新語 1990 2巻 2号 24 35 117
- 3 ジェンダーに関する女子高校生調査報告書 ガールスカウト日本連盟 2019 3/23 ~4/21